

第2回アセアン・インド地域事務所研究報告会  
奥田専務理事 総括および閉会挨拶  
(2026年4月22日)

紹介がありました、専務理事でアセアン・インド地域事務所(AIRO)の所長の奥田でございます。

皆様、本日は長時間にわたり、AIRO 研究報告会「第2回 AIRO レポート」に最後までお付き合いいただき、誠にありがとうございました。また、各報告に対して非常に多くのご質問や有益なコメントを頂戴しましたことに、厚く御礼申し上げます。

本日の報告会では、アセアン・インド地域の持続可能な発展に向けた、具体的かつ実践的な事例・知見をご紹介いたしました。これらの成果は、アセアン・インド地域の課題解決に寄与するものだけでなく、我が国日本の交通・観光政策が今まさに直面している諸課題に対しても、極めて重要な示唆を与えるものであると考えております。

ここで、本日の内容を簡単に総括させていただきます。

1つ目の発表である「鉄道」分野についてですが、

建設が進むタイやインドといった各国の現場実態を通じ、駅周辺開発（TOD）や他交通機関との「シームレスな接続」を総合的に進めることの不可欠さが、改めて浮き彫りとなりました。

本日の報告では、都市鉄道との緻密な結節計画や、民間の活力を取り入れた開発スキームなど、各国の具体例を紹介しました。

このような、インフラ整備と事業スキームを連動させた「接続性の確保」は、今後ますますその重要性を増していくものであり、我が国の提唱する「質の高いインフラ輸出」においても、極めて重要な視点であることを再認識させる内容であったと言えます。

2つ目の「観光」分野については、

インドネシア、マレーシア、フィリピンの事例を通じ、地域が主体となる持続可能な観光の実現に向けた取り組みを検討いたしました。

各国が直面する地域資源や文化の保全と経済発展の両立という難しい課題に対し、政府が推進するデジタル技術を用いた自立支援や、官民連携による徹底した品質管理などにより、地域が自律的に観光地を磨き上げるための具体的な実践例をご紹介しました。

こうした取り組みをさらに発展させ、実践する地域を増やしていくためには、政策と現場での実行とのギャップの縮小や、効果測定・評価の仕組みの構築などを通じて、より効果的な施策を行っていくことが必要だと考えます。

持続可能な観光の促進は、単なる観光振興の枠を超え、住民の誇りや暮らしを向上させる「地域経営」そのものであります。これは私自身が参加したタイやベトナムとのワーキンググループでも一貫して取り組んできた重要なテーマであり、我が国日本の地方部における持続可能な観光地づくりを考える上でも、極めて有益な指針になると考えております。

3つ目の「物流」分野については、インドネシアを中心とする「海 ASEAN」のボトルネック解消に向けた具体的な方策を提示いたしました。

インフラの結節点の効率化やデータの統合・活用に加え、高度な物流を支える「人材の育成」に向けた産官学の枠組み構築の重要性を明らかにしました。

また、成長著しいインドでの物流改善に向けた取組や課題についても紹介いたしました。今後はさらに現地での調査を深め、具体的な改善策の提案へとつなげてまいります。

これら ASEAN・インド地域の物流改善に向けた活動は、我が国が推進する「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」の実現に資するものであり、地域全体のサプライチェーンの強靱化と安定に直結する極めて重要なプロセスです。当研究所といたしましても、引き続きこの課題に取り組んでまいります。

4つ目の「道路公共交通」分野については、クアラルンプール

やジャカルタにおける交通手段統合の先進的な取り組みを深掘りいたしました。既存のインフォーマルな交通手段を公的なネットワークへ大胆に統合し、一つのサービス網として機能させる手法は、多様な交通手段をいかに効率的なネットワークとして再構築するかという、戦略的な視点の重要性を示すものです。

続いて、5つ目の「BRT」分野については、アセアン・インド地域5都市の比較分析を実施いたしました。大規模なBRT網が都市鉄道や二次交通などの他モードと見事に併存・補完し合い、都市全体の移動を支える「背骨（バックボーン）」として機能している実態を浮き彫りにしました。また、BRTの定着と成功には、その企画・計画から運営管理に至るまで、公的主体が主体的に関与し、制度的な裏付けを持って責任を果たすことが極めて重要であることも明らかになりました。

これら「道路公共交通」及び「BRT」の調査研究を通じて得られた知見は、我が国の公共交通のあり方を再検討していく上でも、非常に大きな一助になるものと考えております。都市全体の交通網を戦略的に再構築するという視点を、今後、我が国の課題解決への具体的な示唆へと繋げていけるよう、さらに調査研究を深化させていきたいと考えております。

AIRO（アセアン・インド地域事務所）は、2021年の開設から、

本年4月で満5年という節目を迎えました。

昨年続く2回目の研究報告会となりましたが、特に日本へのフィードバックが強く期待されるテーマにつきましては、アセアン・インド地域の運輸・観光の動向についての最新状況の報告に留めることなく、今後さらに調査研究を深化させていく所存です。

最後になりますが、AIROの活動を多方面から支えてくださっております関係各位、そして日頃よりご支援をいただいております日本財団に対し、心より深く感謝申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。これをもちまして、閉会の挨拶とさせていただきます。